

時間	講 義 項 目
10:00 ~ 12:00	<p>大学評価の歴史的背景</p> <p>大学自身による自己評価の努力義務が謳われたのは、1991年の大学設置基準の大綱化の時である。すなわち、教育内容の「自由化」のカウンターパートとして「自己評価」が導入されたのである。それから十数年間の時間を経て、2004年4月から、認証評価制度が発足し、国立大学が法人化されたのである。</p> <p>大学をめぐる環境変化</p> <p>大学とは、大学の自治とは</p> <p>大学人に求められる能力</p> <p>大学評価をめぐる政策とその展開</p> <p>自己点検・評価、外部評価、第三者評価活動の歩みと中間的総括 質疑応答</p>

昼 食

13:00 ~ 14:50	<p>評価文化の醸成と定着</p> <p>大学評価・学位授与機構は、2000年に発足以来、3回にわたって国立大学を中心に(3回目は公立大学も参加)大学評価の試行を実施した。試行的評価については、検証作業も行い、その成果、問題点、課題などの整理を行った。これらの結果を基に、認証評価あるいは国立大学法人評価に向けての基盤構築に努めている。</p> <p>機構が試行した大学評価の目的と特徴</p> <p>全学テーマ別評価の取組みと検証</p> <p>分野別教育評価の取組みと検証</p> <p>分野別研究評価の取組みと検証</p> <p>評価システムとしての改善・進化</p> <p>大学評価文化の定着へ</p> <p>~ 評価を受ける大学・大学人、評価を行う機関・担当者、一般社会 ~ 質疑応答</p>
---------------------	--

15:00 ~ 17:00	<p>評価文化の展開と大学の発展</p> <p>二十一世紀は教育の時代と言われている。何のために評価するのであろうか。それは、教育研究活動等の向上に資するためであり、社会的な説明責任を果たすためである。社会に向けて説明すべき中心的内容は、教育研究等の質の現状とその向上への取組みである。評価は、大学と評価機関の緊張関係を持った共同作業である。</p> <p>大学評価のためのデータベース整備</p> <p>認証評価による大学の「質の保証」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関別評価の基本と展開 ・専門分野別評価の基本と展開 <p>国立大学法人評価の基本と展開</p> <p>評価を受ける大学側の課題と期待</p>
---------------------	---

評価を行う機関側の課題と責務
大学評価活動が拓く“大学の明日”

質疑応答